

水稲新品種「ウルマモチ」について

岩下友記・町田道正・山川恵久・土井 修
松元幸男・上原裕美・*新屋 明
(鹿児島県農業試験場・*同大隅支場)

水稲西南糯57号は昭和53年から、沖縄県において奨励品種に採用され、通称名を「ウルマモチ」として普及に移されることになったので、育成の経過ならびに特性の概要について述べ参考に供する。なお本品種の育成に直接従事した職員は、筆者らの外2名である。

来歴ならびに育成経過

ウルマモチは昭和41年、鹿児島県農業試験場において「カグラモチ」を母、「奥羽244号」を父として人工交配を行い、世代促進を経て昭和44年雑種第4代で個体選抜を行い、以後、系統育種法により選抜固定を図ってきたものである。

昭和47年から特性検定試験、生産力検定試験に供し、昭和49年から「西南糯57号」の系統名で関係府県において地域適応性を検討してきたもので、昭和52年は雑種第12代に当る。昭和53年6月に「水稲農林糯251号」として登録され、「ウルマモチ」と命名された。

形態的特性

稈長は「ぜんこうじもち」より10cm程度短く、「タツミモチ」と同程度である。穂長は「ぜんこうじもち」よりわずかに長く、穂数はこれよりやや多い偏穂重型の糯種であり、草型は良好で、熟色も良い。

粒着密度は中位で、稀に淡褐色の短芒を有し、ふ先色、ふ色は淡褐色である。脱粒性は難である。玄米の形状は中形で、粒の大きさは中、千粒重は「ぜんこうじもち」より重く、品質は良い。餅の食味も良い。

生態的特性

出穂期は「ぜんこうじもち」より5日程度、成熟期は6日程度早く、早生種に属する。

耐病性は、いもち病に対しては、葉・穂いもち共に一般には「ぜんこうじもち」「タツミモチ」よりかなり強く、強に属し、「奥羽244号」に類似のいもち耐病性を持ち、ほ場抵抗性も強いものと思われる。白葉枯病に対してはI, II, III各菌系群には「黄玉」と同程度である。

縞葉枯病に対してはやや弱い。

穂発芽性はやや難で、糯としては穂発芽しにくい。耐倒伏性は「ぜんこうじもち」よりやや強、「タツミモチ」よりも強く、中程度である。収量は「ぜんこうじもち」より多い。

第1表 一般特性

形質	品種名	一般特性	
		ウルマモチ	ぜんこうじもち
熟期	別	早生	早生
草型	型	偏穂重	偏穂重
程の細太	程	中	中
程の剛柔	程	やや柔	柔
出穂期(月・日)		7・6	7・11
成熟期(月・日)		8・9	8・15
稈長(cm)		81	91
穂長(cm)		20.7	19.6
穂数(m ² 当)		366	352
芒の有無	長短	稀・短	稀・短
ふ先色		淡褐	淡褐
粒着疎密		中	中
脱粒性		難	難
穂発芽性		やや難	中
耐倒伏性		中	やや弱
耐病性	葉いもち	強	弱
	穂いもち	強	弱
	白葉枯病	中～やや強	中
	紋枯病	ビ～少	ビ～少
	縞葉枯病	やや弱	—
a当り玄米重(kg)		42.3	39.8
玄米	千粒重(g)	19.9	19.1
	色	ろう白	ろう白
	光沢	良	良
	品質	上下	上下

注) 成績は昭和50～52年の3カ年の平均値。

耐病性は愛知県総農山間技術実験農場、熊本県農試阿蘇分場、中国農試、岡山県農試北部支場の成績。

第2表 沖縄県農試名護支場におけるウルマモチの一般特性

栽培法	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/m ²)	玄米重 (kg/a)	同 左 比 率	玄 米 千粒重(g)	玄 米 品 質	食 味
標 準	ウルマモチ(1期)	5.25	6.26	70	19.4	374	46.9	98	20.4	上下	良
	〃 (2期)	10.2	11.13	73	20.6	344	37.7	111	20.8	上下	良
	(標) トヨニシキ(1期)	5.22	6.24	70	17.9	340	47.3	100	20.5	—	—
	〃 (2期)	9.30	11.6	72	18.2	366	34.1	100	20.2	—	—

注) 成績は昭和50～52年の平均値

栽 培 適 地

沖縄県の水稲2期作地帯に適する。沖縄県においては1期作及び2期作に適し、比較的収量性、耐倒伏性が優れ、いもち病にも強いために、収量性・耐倒伏性の劣る「高白もち」「台中糯46号」その他糯品種に代わり、あるいは新規作付により普及するものと思われる。普及見込

面積は200haである。

栽 培 上 の 注 意

耐倒伏性が、現在の強稈性粳品種群よりやや劣り、中程度であるので、多肥栽培は避ける。

命 名 の 由 来

普及対象地帯である沖縄の方言名にちなむ。